

## 大学生訪韓団（第2団）（派遣プログラム）の記録 （対象国：韓国，テーマ：日本の魅力発信及び日韓相互理解）

### 1. プログラム概要

日本全国から選抜された大学生等40名が、3月19日～3月28日の9泊10日の日程で韓国を訪問し、学校訪問、韓国文化体験、歴史的建造物視察等を通じて韓国への理解を深めると共に、各訪問先では人的交流を通じて日本の魅力の発信をする等、日韓の相互理解と信頼関係の増進に寄与することを目的として活動しました。

一行はソウル市内及び近郊、慶州市内、釜山市内において、日韓関係に関する講義や大学訪問、ホームステイ、韓国文化体験などを通じ、韓国の文化・社会に対する理解を深めるとともに、日本の魅力（文化・国民性等）について対外発信を行いました。

また、帰国前の成果報告では、訪韓経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

#### 【訪問地】

韓国ソウル特別市，京畿道（華城市，城南市，龍仁市，水原市，坡州市），  
慶尚北道慶州市，釜山広域市

### 2. 日程

3月19日（火）

入国（金浦国際空港）

3月20日（水）

【表敬】韓国国立国際教育院，【学校訪問・交流】水原大学

3月21日（木）

【学校訪問・交流】慶熙大学 国際キャンパス，  
【視察】サムスンイノベーションミュージアム

3月22日（金）

【視察】非武装地帯（DMZ）（臨津閣・統一展望台・第3トンネル），  
【講義】「日韓文化比較について」，【交流】ホームステイ対面式

3月23日（土）

3月24日（日）

終日ホームステイ

3月25日（月）

【表敬・講義】在大韓民国日本国大使館 公報文化院，「最近の日韓関係について」

【文化体験】韓服試着，【視察】景福宮，国立民俗博物館

3月26日（火）

【視察】世界遺産「慶州」（瞻星台，世界遺産仏国寺，韓国国立慶州博物館，慶州東宮・月池）

3月27日（水）

【視察】釜山市内（甘川文化村，朝鮮通信使歴史館），成果報告会

3月28日（木）

出国（金海国際空港）

### 3. プログラム記録写真

訪問地：韓国ソウル特別市，京畿道（華城市，城南市，龍仁市，水原市，坡州市），慶尚北道慶州市，釜山広域市

	
3月20日【表敬】韓国国立国際教育院（京畿道城南市）	3月20日【学校訪問・交流】水原大学（京畿道華城市）
	
3月21日【学校訪問・交流】慶熙大学国際キャンパス（京畿道龍仁市）	3月22日【視察】非武装地帯（DMZ）臨津閣（京畿道坡州市）

	
<p>3月22日【講義】「日韓文化比較について」 水原大学（京畿道華城市）</p>	<p>3月22～24日【交流】ホームステイ （京畿道水原市，ソウル特別市等）</p>
	
<p>3月25日【表敬】在大韓民国日本国大使館 公報文化院（ソウル特別市）</p>	<p>3月26日【視察】瞻星台 （慶尚北道慶州市）</p>

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### ◆ 日本 大学生

・訪韓前は、韓国に対するイメージはあまり良くなかった。また、メディアの情報などの影響で韓国に対して偏見を持っており、日本を嫌っている韓国人が多いと思っていた。しかし今回、実際に現地の人と話したり一緒に過ごしたりすることで、国と国の関係ではなく、人と人の関係が大切であり、政治と人の関係は分けて考えている人が多いと感じた。周りの不確かな情報から人を決めつけるのではなく、実際に交流することの大切さを学んだ。

・訪韓前は、韓国については政治的な問題や食べ物について少し知っている程度で、韓国文化等についてあまり知らなかったが、ホームステイや交流を通じて韓国文化や韓国人の人々が普段どのような生活をしているかについて知ることができてよかった。今回の訪韓による一番の変化は、訪韓前は「韓国」と聞くと国自体の漠然としたイメージしかなかったが、今では交流した人々の顔が思い浮かぶようになったことだ。

・DMZを視察した際に北朝鮮を韓国側から見る機会があったが、その場所に着くまで多くの軍人が警備に当たっている姿を目にし、朝鮮戦争は終わっていないことを実感した。また、今でも自由に会うことが許されない多くの離散家族がいることを臨津閣に一面に貼られた張り紙で知り、一刻も早く解決すべき問題であると強く思うようになった。

った。韓国や北朝鮮について、ある程度の知識はあるという人は多いと思うが、今回のプログラムを通じて「知識だけある」ということは「ないよりはまし」という程度にし過ぎないことを実感した。本当に重要なことは知識ではなく、相手の心に寄り添い問題の解決に向けて一緒に考えていくことではないかと思った。

## 5. 受入れ側の感想

### ◆ 受入機関（訪韓団運営事務局）センター長

・今年度も本学において日本の大学生を受入れられることに感謝し、また訪韓団の本学訪問を心より歓迎している。10日間のプログラムを通じて、今後、日本と韓国の未来を担っていく日本と韓国の若者たちが交流し、より未来志向的な関係を築いていければと願っている。

### ◆ 訪問大学 日本語学科学科長

・訪韓団の本学訪問を心から歓迎する。ここにいる学生たちは皆、日本の生活や文化に大きな関心をもっている。訪韓団の皆さんは日本の全国各地から集まったと聞いた。今回の交流を通じて、是非、日本の学生の皆さんには日本各地の魅力や文化について伝えていただき、また韓国の学生たちから韓国の生活や文化を学んでもらい、お互いの国に対する理解を深めることができればと思う。

### ◆ 訪問大学 交流会参加学生

・交流会に参加し日本の大学生の皆さんから話を聞いて、日本には地域ごとに全く異なる魅力があることを知った。地域によって文化や習慣等が大きく異なるということを知り、韓国では地域によってそこまで大きな違いがないため驚いた。今後、日本を訪れる際には、都市部だけではなく、そのような地域にも行って見たいと思った。

### ◆ 訪問大学 交流会参加学生

・同じ大学生同士の交流を通じて、国籍や話す言語が違って同じように将来について悩み、将来の夢を叶えるために努力しているということを知ることができてうれしかった。今回の交流会で親しくなった日本の学生と今後も交流を続け、いつか日本に会いに行ければと考えている。

## 6. 参加者の対外発信

 <p>午後からは水原大学を訪問し、日本語日本文学の学生たちと交流を行いました。</p> <p>団員たちは自身の出身地を中心に日本の魅力について紹介し、自由討論の時間にはお互いの国の学生生活等について意見交換を行いました。最後には各グループの代表が発表し、討論内容を共有しました。</p> <p>#大学生訪韓団 #JENESYS2018 #日韓文化交流基金 #대학생방한단 #일한문화교류기금</p>	 <p>「いいね！」 37件</p> <p>jkaf_official . Day 7 今朝はバスでソウルまで移動して、韓日大使館公報文化院を訪れました。日韓の外交に関して、貴重な話を聞くことができました(キラキラ)。後半は質問の時間が設けられました。事前に得ていた情報と、このプログラムの中で感じたことを踏まえて生じた疑問を解決すべく、積極的に質問しようとする姿が見られました。</p>
<p>学校訪問先での日本の魅力紹介についての発信</p> <p>午後からは水原大学を訪問し、日本語日本文学の学生たちと交流を行いました。</p> <p>団員たちは自身の出身地を中心に日本の魅力について紹介し、自由討論の時間にはお互いの国の学生生活等について意見交換を行いました。最後には各グループの代表が発表し、討論内容を共有しました。</p>	<p>在大韓民国日本国大使館公報文化院表敬についての発信</p> <p>今朝はバスでソウルまで移動し、在大韓民国日本国大使館公報文化院を訪れました。日韓の外交に関して、貴重な話を聞くことができました。後半には質疑応答の時間が設けられました。事前に得ていた情報と、このプログラムの中で感じたことを踏まえて生じた疑問を解決すべく、積極的に質問しようとする姿が見られました。</p>

## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p>帰国前日に行われた報告会では、各種視察や体験、交流、ホームステイを通じた成果及び帰国後のアクションプランについて発表した。主な発表の内容については以下の通りであった。</p>	

・今回、様々な経験を通じて、日本と韓国の文化的・社会的な違いについて知り、日本の常識が韓国の常識ではないということを知った。両国がお互いを深く理解するためには、自国の考え方や常識を押し付けるのではなく、相手国の考え方を知る必要が有る。帰国後は大学内で報告会を開き、今回のプログラムで学んだ以上のような内容を報告し、多くの人々に伝えたいと思う。

・訪韓前は韓国の人々は日本人に対して良い感情を持っていないのではないかと考えていたが、実際に交流してみて韓国の人々は日本に関心があり日本について知ろうと努力していることを知った。現在の日韓関係における問題について、まっすぐに向き合うためには自分は知識不足だと感じた。今後は日韓の歴史等について、より深く学習し大学内のサークルで日韓の歴史の事実を伝える教科書を作成できればと思う。

・今回、初めてのホームステイを通じて、直接韓国の人々と交流することで今まで韓国の人々に対して持っていた偏見や誤解を解くことができた。また、文化の違い等に基づく考え方の違いについても知ることができた。多くの人々がこのような違いに気付くことで、日韓両国がより深く理解し、ひいては未来の日韓関係につながっていくのではないかなと思う。大学内での報告会や地域の新聞社への寄稿等を通じて、このような内容をより多くの人々に伝えていきたい。また帰国後も、今回の訪韓で知り合った韓国の人々に日本の魅力を伝えながら交流を続けていきたい。

(了)